

2024年度
第1回 理事会議事録

2024年 5月 21日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2024年度 第1回理事会議事録

1. 日 時 2024年 5月 21日 (火) 14:00～17:05
2. 場 所 全構協 第一会議室
3. 構 成 員 14名
4. 出席構成員 13名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議事次第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 審議事項
 - 第1号議案 2023年度 事業報告及び決算承認の件
 - 第2号議案 2024年度 正会員会費額承認の件
 - 第3号議案 第57回通常総会招集及び議案確認の件
 - 第4号議案 委員会規程改定の件
 - (6) 報告事項
 - 1) 2024年度 事業計画<文言修正>確認について
 - 2) 退任役員に対する感謝状贈呈について
 - 3) 総会当日のスケジュール及び開催要領等について
 - 4) 委員会等活動状況報告
 - ① 運営委員会
 - ② 技術委員会
 - 5) 鉄骨製作図問題への対応について
 - 6) 「品質管理責任者講習会」開催地について
 - 7) 特定技能外国人材関連情報について
 - 8) その他 (日建連からのBIMに関する要請について)
 - (7) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 2024年度主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (8) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は大島理事が欠席し 13 名の理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事については、五月女監事が欠席し、村上監事に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

永井会長より「来月、6 月には総会が開催されます。この 2 年間、皆様のご協力をいただき、様々な事業を行うことが出来ました。あらためて感謝申し上げます」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2023 年度第 8 回理事会の要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 審議事項

第 1 号議案：2023 年度 事業報告及び決算承認の件

「2023 年度事業報告」について、事業の状況、会員の状況、役員・職員の状況、会議開催状況等の重要部分が、議案書[理 24-1-議 1]〈p3-23〉にそって平井事務局長、新村技術部長より説明された。

引続き、「2023 年度 決算」について、貸借対照表、正味財産増減計算書、予算との差異、公益目的支出計画実施状況が議案書〈p24-36〉にそって平井事務局長より説明された。

説明の要点は以下のとおり。

○「2023 年度決算」は、第 8 回理事会(3 月 19 日開催)において説明した「2023 年度決算見込」と概ね同様の内容でしまっている。

○貸借対照表

- ・「資産合計額」は、1,037,891 千円で対前年度差 24,130 千円増であった。
- ・「流動資産」は、554,148 千円で前年度から 27,658 千円増加した。
- ・「退職給与引当資産」が、78,349 千円で前年度から 5,823 千円増加したが当期分の引当による増加。
- ・その他固定資産額の増加については、全国鉄骨評価機構の株式追加取得が入っている。
- ・以上の結果、期末の「負債及び正味財産合計額」は、前年度末比+24,130 千円増加して、1,037,891 千円となった。

○正味財産増減計算書

- ・「経常収益」は 367,025 千円で、対予算 19,838 千円増加であった。これは、

更新講習の受講者増による「検査事業収益」の増加の影響が中心。

- ・「経常費用」は約 348,593 千円で、対予算 20,214 千円減であった。これは、「次世代経営研修」関連事業の実施内容を見直したことなどにより、旅費、印刷製本費、謝金等の費用が減少したことによる影響が大きい。
- ・以上の結果、「当期経常増減額」は、18,431 千円増加[対予算比 40,051 千円増加]となり、「正味財産期末残高」は、956,773 千円となった。

○公益目的支出計画実施状況

- ・公益目的支出計画実施状況に関し、公益目的財産額は、計画実施前の 2013 年度期首には 528.1 百万円、2022 年度期末残高は 16.4 百万円であったが、2023 年度 30.3 百万円消化し、2023 年度末をもって消化が完了した。今後、内閣府に対して、完了報告を実施する予定。

また、事業報告及び決算書類に関しては、定款 25 条、43 条の規定による監事 2 名の監査を受け、適正であることが確認されている旨 報告された。

上記説明に対する質問、意見等はなく承認され、原案どおり 6 月 14 日開催予定の第 57 回通常総会へ付議することが確認された。

第 2 号議案：2024 年度 正会員会費額承認の件

各県のグレード別構成員数と、会費規程に定める正規額から 10%減額した単価を前提に計算した各正会員の 2024 年度年会費額が、議案書[理 24-1-議 2]<p39-40>により提示された。

本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認され、総会承認を経て本金額を各正会員宛てに請求することが確認された。

第 3 号議案：第 57 回通常総会招集及び議案確認の件

第 57 回通常総会の招集に関し、議題、開催日時、場所、審議事項、議決権行使の方法等について、議案書[理 24-1-議 3]<p41-48>にそって、平井事務局長から説明された。また、総会議案書が配布され、第 4 号議案「任期満了にともなう役員選任」議案を含め、説明され、確認が行われた。また、今後の副会長体制については、大竹副会長と板垣氏の 2 名体制で対応していくことが、永井会長より報告された。

本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認され、総会開催日の 14 日前までに、本招集通知及び議案書を全会員宛てに発送することが確認された。

尚、総会出席に際し提出する「出席通知書」について質問があり、確認をすることとした。

第 4 号議案：委員会規程改定の件

委員会規程改定について、「運営委員会」内の支部の位置付けに関する報告を踏まえ、議案書[理 24-1-議 4]<p49>にそって、「任期の上限は 3 期 6 年とする」

という内容を委員会規程に追加することが説明され、確認された。
本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認された。

(6) 報告事項

1) 2024年度 事業計画<文言修正>確認について

2024年度 事業計画<文言修正>について、議案書 (p51-52)にそって、平井事務局長から説明され、確認された。

- ・2024年度の事業計画については、本年2月の第7回理事会(2月21日開催)において承認をいただいたが、その後の環境・状況の変化等もあり、事業運営方針に関わらない範囲で、「基本方針」と「特定技能」関連の文言修正を実施することとした。

2) 退任役員に対する感謝状贈呈について

退任役員に対する感謝状贈呈について、平井事務局長から説明され確認された。

3) 総会当日のスケジュール及び開催要領等について

通常総会が開催される6月14日の全体スケジュール、開催概要等について、議案書 (p53-54) そって説明された。

尚、総会当日の進行について、議長及び議事録署名人の推薦に関する提案が行われ、了承された。

総会議長 : 関東支部 秋山理事

議事録署名人 : 東北支部 三浦理事、中部支部 柏原理事

4) 委員会等活動状況報告

① 運営委員会

運営委員会での検討内容について、議案書 (p55-61)と別紙にそって、妹尾委員長より説明され、確認された。

[支部の位置付け]

- ・支部の位置付けの明確化に関しては、前回理事会での指摘・ご意見を反映し、「文言の修正」、「支部長が理事会を欠席する場合の対応」、「委員の任期」の項目等について修正行った。

また、委員の任期については、上限を3期6年とすることとし、本資料に記載するとともに、合わせて委員会規程にも記載(規程改定)することとした。

尚、本資料の運用については、規範的な文書として取り扱い、7月の新しい体制での理事会において説明することが確認された。

[物流問題]

- ・物流問題対応について、ポスターとチラシを作成し、各組合に配布すること、関係業界への周知対応として、今年の働き方改革に関する発信時同様、地方建設専門紙に掲載をすることとした。

また、チラシのデザインが3種類提案され、C案のレイアウトに、A案の文字配置、荷台の荷物をファブの製品に変更する案が提案され、三役に一任された。

- ・輸送に関する条件書については、各地域でゼネコン等との折衝時のファブ側の手持ち参考資料として活用していただく、金額表示の部分等についても、参考金額という表記とすることが提案された。

チラシ、条件書について、次回理事会にて最終形を提示することとした。

- ・業績調査については、調査回答率の向上と調査内容の充実、特に特定技能関係の調査項目の検討を含め、次期運営委員会にて検討することとした。また、検討の進捗状況によっては、調査時期が後ろずれする可能性があるとの説明があった。

② 技術委員会

技術委員会について、議案書（p62）にそって、佐藤委員長より、以下の内容が説明され、確認された。

- ・JASS 6 及び関連指針の改定に向けて、各支部から出された意見項目について、現技術委員会にて評価を行い、次期技術委員会に引き継ぐこととした。
- ・鉄骨技術研究開発助成制度（全構協実施型）について報告が行われた。

5) 鉄骨製作図問題への対応について

鉄骨製作図問題への対応について説明され、確認された。

- ・各支部長から、活動状況等について以下の報告があった。

各地域の行政組織・窓口、建設業関連団体を訪問すべく、訪問先の選定、具体的なアポ取り等計画中。

訪問したところについては、日建連、全建からも連絡が来ている等の情報を含め、問題の共有化が実施出来た。

活動を継続するとともに、訪問先情報の共有化を進めることとした。

- ・図面に関する契約書の取扱いが不明確であるとの問題があり、あらためて「契約書のひな型」を整備すべく、WGでの検討を実施予定である旨報告があった。

- ・「中小企業庁」等が行っている「取引に関する調査」については、問題を明確にするためにも、適切に回答する必要がある。構成員企業が調査に適切に対応出来る様、解説書等の支援対応について提案があった。

6) 「品質管理責任者講習会」開催地について

「品質管理責任者講習会」開催地について、議案書（p65-67）にそって、

説明があった。

- ・全構協としては、2026年までの3年間の中で、各支部1回は、講習会を開催して欲しい旨、教育センターに対して要望を提出した。
- ・教育センターからは、「次年度以降の開催地については、今年度実施した状況をふまえ、極力要望に沿えるよう検討する」との回答を得たとの報告があった。

7) 特定技能外国人材関連情報について

特定技能外国人材対応について、平井総務部長から説明された。
内容は以下の通り。

- ・特定技能の件について、分野追加が決まったとの報告をしているが、未だ具体的な産業分類が発表されていない状況である。窓口である経産省からは、きちんと発表されるが、もう少しばかり時間がかかるとの回答を得ている。
- ・別のルートからの情報として、追加される職種分野が多岐に渡っていることもあり分類・整理にかなり時間がかかっていること、その後の動きとして、パブリックコメント等も予定しているとの情報もあり、産業分類が発表されるまでには、年内という様な期間で時間がかかる可能性があるとの報告があった。

8) その他

①日建連からのBIMに関する要請について

- ・日建連から、BIMに関する意見交換への協力要請があったことが報告された。ゼネコン側の検討に一定のレベルで関わっておいた方が良いとの意見があり、日建連提案の参画企業を前提に進めることとした。

(7) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2024年3月31日時点の構成員数は、前回報告時(3月21日)より9社減少し、2,151社であること等が、議案書(p71-74)により報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2023年度の推定鉄骨需要量がしまり、329万トンとなった。

3) 2024年度主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p76)により確認された。

尚、新しい体制での委員会、WGの活動を速やかにスタートさせるため、臨時の理事会を開催することが提案された。

臨時理事会：8月27日(火)12時から

4) 支部報告

〔北海道〕

- ・オリンピックもなくなり、新幹線も見通し不明という状況で困っている。
- ・大型の案件はあるものの道外のファブが取っている。中小の見積りは少なく、道内のHファブ含め、少ない案件に集中し、単価も下がっている。

〔東北〕

- ・新年度になり少し動きが出てきた。見積りは相変わらず少ない。今年、我慢の年になると予想している。

〔関東〕

- ・物件は少ない、山積みも少ない。価格競争になっている。
- ・人手不足による工期の延長、不調も発生。副資材の高騰は厳しい。

〔北陸〕

- ・能登地震の復旧については準備・調査の段階で、本格化はまだ先。物件も伸びており、稼働率も低い。先の見通しは不透明。

〔中部〕

- ・山積み少ない。特に地場物件は少なく、取り合い状態で、価格も下がっている。労務費の転嫁は苦戦している。

〔近畿〕

- ・先行き不透明で、価格も上がらない。近畿内でも都市と地方の濃淡あり。
- ・報告内容について、統一感を持たせる方向で整理をしたいと考えている。

〔中国〕

- ・全般的に案件が少ないが、Hグレードは、都市案件を中心に受注残あり。
- ・M以下はローカル中心の仕事、山陰地方は比較的競合も少なく何とかやっているが、山陽は厳しい。鉄骨の仕事からのシフトも進んでいる。
- ・PC構造の進展、CLTへの置き換え等が進んでいる。特に2-3階建て物件では圧倒されている状況。あらためてS造化推進の取組みが必要。

〔四国〕

- ・山積み低調、価格も厳しい。繁忙感にも会社毎に差がある状況。

〔九州〕

- ・大手と繋がっている会社は仕事がある状況。M以下は仕事量は少ないものの、価格は落ち着いている。
- ・厳しい状況は続くも、2026年以降に向けて底堅さあり。他支部に比べると、仕事はある状況。一方、沖縄は極端に厳しい状況。

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項等、予定された事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 竹	良 明
専務理事	小 貫	武
理 事	佐 藤	正 記
〃	三 浦	隆 宏
〃	秋 山	順 一
〃	寺 田	健 信
〃	柏 原	正 明
〃	出 雲	津 芳
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	村 上	眞 樹

理事総数 14名 うち出席者 13名 [欠席：大島副会長]
監事総数 2名 うち出席者 1名 [欠席：五月女監事]